

事業の概要

(2-1. ボランティア連携マニュアル等の作成【大阪府】)

大阪府において、ワーキングを通じてモデル自治体（吹田市、泉南市、茨木市、門真市）の廃棄物担当職員と社会福祉協議会ならびに、ボランティア関係者との協議を重ね、大阪府版のボランティア連携マニュアル等の作成を行った。

- ワーキング意見を反映して、①災害ごみ処理に係る市町村向けボランティア連携マニュアル案[モデル例]、②ボランティア向け災害ごみ処理ハンドブック案[モデル例]、③ボランティア向け災害ごみ処理研修ツール案[モデル例]を作成した。計4回のワーキング意見を反映し、各資料を取りまとめた。

WG	実施日	対象	実施内容
第1回	令和4年 9月20日(火) 13:30-16:00	行政職員、 社会福祉協議会、 ボランティア 関係団体	災害廃棄物処理の流れやボランティアセンターの動きなどに関する座学を行った上で、発災後の各主体の対応、ボランティアとの関わりについて、意見交換を実施した。
第2回	令和4年 11月2日(水) 9:30-12:00	行政職員、 社会福祉協議会、 ボランティア 関係団体	ボランティアへの配布を想定するハンドブックの骨子について意見交換を実施した。プロボノを中心に実際の被災現場の状況を踏まえて、実効性あるハンドブックの構成や記載内容に関する意見をもらった。
第3回	令和4年 12月9日(金) 13:30-17:00	行政職員、 社会福祉協議会、 ボランティア 関係団体	第2回ワーキングでの意見を踏まえて、ハンドブック案を示すとともに、ハンドブック啓発のための研修で活用する想定研修ツールの素案について意見交換を行った。各自治体から、自治体の事情に合わせて編集する必要がある指摘を受け、本成果は大阪府の[モデル例]として作成することとなった。
第4回	令和5年 1月23日(月) 13:30-17:00	行政職員、 社会福祉協議会、 ボランティア 関係団体	これまでの議論を踏まえたハンドブック[モデル例]、研修ツール[モデル例]と、連携マニュアル案に対する意見交換を行った。連携マニュアルも各自治体での編集を可能とする[モデル例]に位置付けることとした。



ハンドブック(抜粋)



研修ツール(抜粋)